



AOYAMA LAW



青山学院大学法学部中国セミナー 〔海外研修 D／海外研修（中国）〕



研修期間：3月上中旬の8日間

このセミナーは、中国上海市にある華東政法大学を中心に、復旦大学や同済大学等関係大学において、合計8日間にわたって行われる「現代中国における社会と法」をテーマとする中国法研修プログラムです。本研修は、現地での法学講義、学生交流討論会、法曹関係施設見学、企業見学および文化体験を通じて、現代中国社会と法制の現状および課題を理解し、比較法の素養を身につけ、アカデミック・コミュニケーション能力を高めることを目的とします。



1) 研修先・研修費用

研修先： 華東政法大学等（中華人民共和国上海市）

研修費用： 約22万円（往復航空運賃、宿泊費、授業料、外国送金手数料、現地交通費（自由行動利用分除き）、現地文化施設見学料）

※ 中国の消費者物価と為替レート等事情により変動されます。超過金額はすべて返金します。また、参加決定後に自分の都合によりキャンセルした場合は、キャンセル料が発生しますのでご注意ください。

※ 以下の費用は申込金に含まれません。

ビザ申請関係費用、旅券取得関係費用、海外旅行傷害保険料、超過手荷物料金、食費、個人的な費用（電話代・クリーニング代・おみやげ代等）等

2) 参加資格

次年度前期に在学予定である法学部・大学院法学研究科の正規学生であり、本研修の趣旨を十分に理解し、現地における学習活動に意欲的に取り組むことを約する者。

3) 定員・選考

定員は20名とします。定員を超える応募があった場合、面接選考を行います。

最小催行人数は3名とします。



4) 説明会と申込手続

説明会： 10月中旬より昼休み等の時間を利用して数回個別説明会を実施します。（日時・場所は予め学生ポータルにてお知らせします。）

申込期間： 11月中旬～12月中旬

申込方法： 参加申込書・誓約書、参加志望理由書の2点を申込期間に提出してください。申請が認められた場合は、個別に通知します。



5) 単位履修と成績評価について

次年度も法学部に在籍する学生には、次年度前期の「海外研修（中国）」または「海外研修D」の2単位が認定されます。単位を取得するには、研修プログラムのすべてに参加し、「研修レポート」を提出する必要があります。成績評価は事前学習、現地授業及び「研修レポート」の総合評価で行います。

6) 引率担当者

楊 林凱（法学部准教授）



7) 研修の内容・スケジュール

形式： 中国法に関する講義・演習及びフィールドワーク

使用言語：中国語（逐次通訳あり、中国語⇄日本語）、日本語

主な研修内容（参考）： ①出発事前学習会 ②出発前学習会 ③中国法の基礎
④公民の基本権利と法 ⑤裁判と法 ⑥財産と法 ⑦金融と法
⑧民商法入門 ⑨ビジネスと法 ⑩犯罪と法 ⑪環境と法
⑫研修レポート作成・提出

現地研修スケジュール（参考）：

1日目	出発・現地着、歓迎会	2日目	上海市内見学
3日目	③・④・⑤・討論	4日目	松江キャンパス見学、交流会
5日目	裁判所訪問、⑥・討論	6日目	⑦・⑨、法律事務所訪問
7日目	⑩・⑪、企業見学	8日目	帰国

〈 参加者の声 ～「研修レポート」より抜粋～ 〉

- 私は今回の中国セミナーが初めての海外だった。世界史や日々のニュースで見聞きし、密かに憧れや興味をいただいていた広大な大陸の一都市に実際に行くことができると聞いた時はとても嬉しかった。正直授業は私にとってとても難しかった。学年が上の先輩方と少人数で授業を受けることは初めてのことだったし一年生の時は憲法や民法の単位をとりあえず取った。というのが正しいだろうか。しかし私の不安を取り除くことができたのは、全部はわからなくても面白い！すごい！と思えたからだ。勉強は興味・関心という自分の土台があってこそ成り立つのだということを感じさせられた気がする。今大学で勉強していることの全てに興味を持つことはできないけれど、勉強できる環境に感謝をしてこれから勉強していきたいと思う。自分の意識が変わった理由は講義をしてくださった先生の姿だけでなく、生徒の方々の姿もそうだ。日本語でわからないところもあると思うのに、私達のプレゼンテーションを真剣なまなざしで聞いてくれていた。私も講義の時の自分の姿勢を見直さなければいけないと思った。そして彼女たちの目はとても輝いていた。日本に行きたいという熱い気持ちをもっている学生の方々と交流できたことは私にとってとても嬉しかったしよい出会いだった。
- 中国の刑事法分野については事前知識が乏しく、どこまで理解できるか不安があったが、基礎的な立法の流れから解説があり、非常にわかりやすかった。中国は古代より律令制が用いられ、刑事法については非常に長い歴史を持つ国として、日本も学ぶところが多いかと思っていたが、意外にも経済犯罪に代表される現代社会ならではの問題を抱えていることがわかり、日中双方での今後の動向が非常に楽しみに感じられた。特に中国で爆発的に流行している電子取引から生じる犯罪は今後日本でもLINEPay等の導入によって同様の事件が生じると考えられ、中国でどのような事案が生じたか、どのような解決法が採られたかについては引き続き注視していくべきと考えられる。
- 正直日本しか知らないと息苦しいし将来に対しての不安ばかりが頭をよぎってしまう。しかし上海のクルージングで見た景色や高層ビルからの景色、大学生の姿、街の景色、そのほとんどが日本では見られないもので、新鮮だった。日本も素晴らしいところであるはずなのにきっと私達は今あるあたりまえの日々に慣れてしまっているのだと思う。資生堂の工場や弁護士事務所、裁判所もとても規模が大きかった。中国らしさと上海らしさが詰まっていた。これは実際に行ってみないとわからないことだ。今回の中国セミナーを通して自分の視野が広がったのは確実に言えることだ。近年は海外へ留学する人も減っていると聞く。金銭面も関わってくるが、日本だけにとどまってしまうのはもったいない。自立した勉強の仕方が求められている大学生のうちに私は上海へ行って本当によかったと思っている。これからも視野は広く、上海で感じた思いを忘れないで生きていきたい。
- 人民法院にて現役の裁判官の方から聞いた実務家としての正義との向き合い方は正義論について卒業論文を執筆する予定である私に大きな影響をもたらした。それは、いくら正義論

を研究し、功利主義批判、リバタリアニズムといった解釈を生み出したところで実際の事件に必ず対応できるかどうかは分からず、特に利害関係が目の前にある場合に何らかの結論を出さなくてはならない裁判官という職業の重さを改めて実感した。卒業論文では先行研究だけではなく実務家の存在についても触れたいと考える。

- 今回のセミナーに参加して痛感したものが「語学力」と「法律に関する知識」である。自分では他の学生よりも中国語と中国法に対して熱心に学んできたつもりではあったが、中国語は教科書の例文と実際の会話では使う言葉や言い回しも全く異なり、早口で聞きとることに苦労した。さらに中国の法律ばかりに興味を持っていたが、基盤となるべき日本の法律に対する知識が乏しいことを実感し、これまでの学習態度について反省したいと考える。学部は残り1年という短い期間ではあるが、できるだけ多くのことを学び取って卒業したい。そして、セミナーをきっかけに出会った人々との縁を大切に、いつか再び上海を訪問したいと思う。
- 華東政法大学外国語学部の生徒の方々のプレゼンテーションはパワーポイント、口頭での説明どちらも正しい日本語で行われており、授業が終わった後の交流の場でも数人の生徒の方々といたって普通に会話を楽しむことができた。またメールでのやり取りをする際も単に日本語の文章が打てるだけでなく、正しい敬語を使って文章を書いていたことに私は驚いた。中国の人々が英語に達者なのは小学校から英語教育が始まっているからだと思ったが、そもそも勉強に対する姿勢が日本人と違うのではないかと私は考えた。そういったこともふまえ、上海の3つの大学をまわって思ったことは、上海の学生は、日本のように遊びもサークル活動等も推奨されるようなキャンパスライフを過ごしているわけではなく、あくまで学問を重視して大学に通っているのではないかと、ということである。大学に遊びに来るのではなく、本気で学問を学ぼうとする姿勢が2年、3年という短い期間であれほどの言語力をつけることになったのだろうと私は考えた。
- 中国での10日間の充実した日々での大学の授業は、少人数制で直接先生と面と向かって中国の法律や制度を学ぶことができた。法の知識が身についただけでなく、学習意識の高まる経験になり、私を一層成長させてくれたように思う。これから私も日本の法律をさらに学び、中国の法律と比較できるだけの知識を得なければならない、と改めて感じた。また、中国の大学の学生と交流した際には、日中間の関係は悪化する一方だが、文化の違いや価値観、考え方を理解し合うことができ、中国に対しての印象は遥かに良くなった。中国と日本がお互いに尊敬し合い、良い部分を吸収し、協力することが出来たら社会は円滑に流れることができるはずである。このような社会を生きているからこそ、中国での貴重な体験を通して、中国への理解を深めていきたい。
- 刑事事件の裁判を傍聴させてもらいましたが、私は裁判を経験するのは今回が初めてでした。この裁判では日本でもよく見られる犯罪である窃盗が案件でした。実際に傍聴をしていると、犯行内容やその動機などが中国語なので表現がそのまま直に伝わるわけではありませんでした。容疑者が証言の途中で感情を露わにしたり、判決内容を聞いたりすると傍聴してい

た側まで悲しくなり同情しそうになりました。窃盗や殺人などニュースなどでも聞くことはありますが、生活の中で目撃したり経験したりすることはめったにないのであまり現実味がありません。しかし、裁判では実際に窃盗などを行った人と関わるので容疑者などを目の前にすると少し辛かったです。

- 海外に行って何が一番楽しいかと言えば、もちろん名所に行ったり現地の美味しいものを食べることもありだがそれよりも何よりもそこに住んでいる人たちと話して文化の違いを肌で感じ出会いを楽しむことこそ海外に行くことの醍醐味と思っている。今回のセミナーではその醍醐味を味わうことが出来る多くの学生との交流をすることが出来本当に良かった。これからの自分のやっていきたいと思っていることのヒントを得ることができ、また良き出合いもあり、自分自身の不甲斐なさや勉強不足であることも感じたと同時に自分を奮い立たせるきっかけにもなったと思う。このような機会を頂いたことに感謝をしている。今回のセミナーで自分の目で見て耳で聞いて肌で感じたことを、ただ楽しかった！の一言で終わらせることがないよう、これからの自分自身の活力と栄養にしていきたい。
- 英語に関しては、日本の学生はほとんど使いこなせていないのに対し、私たちから見たら中国の学生はみんな英語圏の国に留学したことがあるのかと思うぐらい使いこなせていた。日本は高校までほとんど受験の為にだけに英語を勉強する。中国に実際行ってみて改めてこのような日本の英語教育を見直す必要があると思った。法律事務所や企業に行くと印象的だったことは、それぞれの事務所や企業の方がおっしゃっていた、“日本企業や、日本に対する印象”である。中でも印象的だったのは、錦天城法律事務所の方が「日本は内部管理などがしっかりしているが、しっかりしすぎている分決断が遅く、チャンスを逃しやすい。」と指摘していることだった。日本のお得意芸であった車や電化製品などの輸出産業は、近頃韓国などの新興国の企業に押されていると言われている。日本がグローバル化の中で勝つためには、内部管理もこれまで通り重視しつつ、組織を簡略化して決断をより速くしていく必要があるのではないかと思った。
- 中国の学生と交流するに当たって、自分自身は外国人と話す機会が少ないので最初は緊張していましたが、中国の学生がとても友好的だったのですぐ打ち解けることができました。中国の学生とは勉強のことから雑談まで色々な話をし、とても有意義な時間を過ごせました。また、私が中国の学生と話をしていて感じたことは、各々意識が高く、目標を持って努力をしていることです。これらの学生と話することによって、自分自身もモチベーションが上がり、夢に向かって頑張ろうという気持ちにさせてくれました。
- 今回のセミナーで、中国に対しての私の中での一歩が踏み出せたのかなと思います。思っていた通りだったところや、実際に肌で感じると思っている以上のところであったり、予想とは全く違うものであったり、と色々なことを味わえました。やはり、実際に肌で感じて正解でした。中国の文化に触れ、それがアジアに目を向けるきっかけとなり、視野が少しは広がったのではないかと思います。修了式では代表して挨拶もさせていただきありがとうございました。また、楊先生とはもっと話をしたかったです。そして、あまり話はできませんでしたが、有

意義なお話ができただことは非常に私にとってはプラスでした。私は、いろいろな話を聞きたい、いろいろな議論がしたい、いろいろと吸収したいと思いこのセミナーに参加したようなものなので、十二分にこのセミナーに参加した意義がありました。

